

# 東京農業大学稲花小学校

学校だより【2023年4月10日】第160号



## 入学おめでとうございます

4月6日(木)、農大稲花小の第5期生となる新入生72名の入学式が、本校体育館で行われました。校旗とともに入場してきた子どもたちの表情は、緊張の中にも晴れがましさにあふれたものでした。入学を許可する告示、校長の式辞のあと、子どもたち一人一人が担任に名前を呼ばれ、元気よく返事をします。昨年までと違って、各ご家庭2名までということでご参加くださった保護者の皆様にもうれしい入学式となったことでしょう。

入学式のご来賓として、学校法人東京農業大学理事長大澤貫寿先生、同初等中等教育部統括校長金田喜明先生、そして東京農業大学稲花小学校教育後援会会長 塙 勝博様にご登壇いただきました。小さい子どもたちのための入学式ということで、印刷の上で保護者に配布させていただきましたが、大澤理事長と塙会長には、ご祝辞も賜りました。篤く御礼申し上げます。

## 始業式

4月7日(金)は始業式の日でした。農大稲花小では初めて、始業式を体育館で行いました。2年生から5年生までがそろった中、1年生が拍手で迎えられました。また、先生方の紹介も行われました。

校長からは、上級生は下級生のよいお手本になるように、また下級生は上級生を見習うようにということ、もう一つ、今年度は「みんなをお互いに大切にしよう」ことを話しました。授業中におしゃべりをしたりするのは、授業をしてくださっている先生の思いを大切にしないこととなりますし、勉強したいという友だちを気持ちを大切にしていないことにもなります。そして何より、勉強して伸びていく自分自身を大切にしないこととなります。相手の気持ちを思いやりながら友だちと遊んだり通学したりすることも大切でしょう。なにかをするとき、自分自身を含めて、家族、友だち、先生、周囲の人々を大切にしている行為かどうか、立ち止まって考えてほしいと願っています。

始業式の日から、1年生はチキンカレーライス、サラダ、カムカムジュレとフルーツ、そして牛乳の給食を食べ、7時間目までの時間を過ごして、下校しました。始業式の日からこんなに長く学校で過ごす1年生は、日本中探しても農大稲花小の1年生だけかもしれません。きっと疲れたことでしょう。週末、ゆっくり休んで、月曜日からまた元気に登校してきてください。

## 英語の授業

1年生を含めて、始業式の日から英語の授業がはじまりました。今年は5名のネイティブの先生方が英語を担当されます。初回の授業の開始に際して、英語の授業に真剣に取り組むことについて話をしました。子どもたちの将来の夢は何になることでしょうか。どのような職業であっても、英語ができることは可能性を広げ、世界を広げます。4年生が春休みにオーストラリアに行って現地の小学生と勉強し、ホームステイでは楽しく過ごした話も、下級生には励みになったことと思いま

す。英語の勉強を通して、楽しい経験もできるのです。英語の授業や復習に真剣に取り組まないことは、これもやはり、教えてくださる先生を大切にせず、英語に集中したい友だちを大切にせず、そして自分自身を大切にしていないことになります。ご家庭でも、子どもたちの英語学習を励ましていただきますようお願いいたします。

## お祝いの品々

入学式の日、1年生は教科書ほか様々なものを持ち帰りました。教育後援会からのお祝いの品であるナップザックに加えて、大学、高等学校、中学校そして小学校の教育後援会からなる連合教育後援会からはお箸と箸包み、アルファード食品株式会社からはアルファード化米のお赤飯、そしてキューピー株式会社からは殻破りキューピーストラップを入学のお祝いに頂戴しましたので、配布しました。さらに小学校からは、農大稲花小学校の設立に当たって作られた冊子と群馬県高崎市風間堂の紅白饅頭とを贈呈しました。紅白饅頭には農大マークと小学校のみのもりマークがついています。なお、お祝いの品をご寄贈いただいた皆様には、毎年変わらぬご厚情に心から御礼申し上げます。

## 花で迎える

新学期、正門から玄関までの通路は、新2年生が栽培したチューリップ、キンセンカ、そしてネモフィラの花で飾られました。ことしは開花が早く、入学式の前に満開を過ぎてしまったチューリップもありましたが、1年生を迎える気持ちは伝わったことでしょう。散り始めた桜も、春らしい雰囲気を出しています。ハナミズキの花ももうすぐです。植物を愛でながら育つ子どもであってほしいものです。

東京農業大学稲花小学校

校長 夏秋 啓子